



弥生三月、春の訪れを感じるはずの季節ですが、このところ雨ばかり。

加えて今年の花粉は強烈で、とにかく家にいるのが一番。

ということで、録りためてあった映画を観はじめました。

まず観たのが“ラベンダーの咲く庭で”と“ジャスミンの花開く”。

ラベンダーとかジャスミンなど、他にも精油にありそうな植物の名前が入っていると、何だか観なくてはいけない気分になってしまうのは、職業病の一種でしょうか？

“ラベンダーの咲く庭で”は2004年・イギリスの作品。

1930年代、海辺の崖の上の家にはひっそりと住んでいる老姉妹の生活に、ひよんなことから異国の青年が闖入してきます。

それまで静かで単調だった老姉妹の日常は、青年の出現によりいきいきとした彩りと喜びが加わるようになり、特に妹は、この青年を心から愛するようになってしまいますが・・・。

この妹、アーシュラ役がイギリスの名女優、ジュディ・ディンチ。

まるで孫のような年齢の青年を見つめる切ないまなざし、おずおずと青年に触れる指。

初恋をした少女の気持ちのまま、でも自分の“老い”も充分わかっている哀しい老女を好演しています。

コーンウォール地方の美しい風景、花の咲き乱れる美しい庭、青年の若さゆえの無自覚な残酷さがアーシュラの哀しさを浮き彫りにするように描かれているけど、一方、幾つになっても少女のような気持ちで恋ができるって、素敵なこと。そう、私は受け取りました。

しかし、映画を観終わって一つ謎が。庭にラベンダーが咲いていた記憶がないのです。

でも、原題も“Ladies in lavender”。

それで、もう一度全編観なおしました。早送りです。すると、ごく始めの庭のシーンのすみっこに確かに2～3群咲いていましたが、よほど注意深く観ていないとわかりません。

なぜラベンダー???

“ジャスミンの花開く”は2004年・中国の作品。

1930年代の上海から始まり、男運の悪い祖母・母・娘の三代をチャン・ツイーが一人で演じ分けています。

楽しい映画ではないけれど、チャン・ツイーが美しいので、それでまあいいか、というのが吉田の感想です。映画も題名やポスターだけで観ると結構当たりはずれがありますが、それもまた映画の醍醐味なんですね。

3月お奨めのエッセンシャル・オイル・・・ラベンダー



“ラベンダーの咲く庭”にちなんで、今回はラベンダーをお勧めします。癒しの効果は天下一品。眠れない夜には、枕もとに薫らせてください。深くて心地よい眠りに落ちれるはずですよ。

3月のハーブ・ティー

春先、何かとあわただしい日々の中でほっと一息

マリーゴールド・ハイビスカス・レモングラス

♥ トリートメント後のハーブ・ティーは、その日のお客様の体調に合わせたブレンドでお出しします

aromatherapy-salon

rose・drop

TEL 090-3578-4048

静岡市清水区中矢部町19-17

吉田 浩子